

2017年2月10日

於：田町 料亭「牡丹」

木造住宅を支える二大メーカー

中国木材 堀川会長 VS タツミ 山口会長

創業者会談

日本の木造住宅の屋台骨を支えるドライビームで No.1の実績を誇る中国木材株式会社様は、80歳になる堀川会長が1955年に創業。戦後の日本の復興期に人々の夢であった“幸せな我が家”の家づくりをともに歩んで、

業績を拡大されました。一方、来年で創業40周年を迎えるタツミは建築金物メーカーとして地震に強い家づくりをめざし、金物工法の普及に邁進。

家づくりにかける情熱は誰にも負けないと思われる二人の創業者会長が

和やかに語り合いました。なお、ご高齢の堀川会長に代わり、弘中取締役営業本部長が現場のあれこれを忌憚なく山口会長に語っていらっしゃいます。

山口会長：堀川会長が社長当時、娘さんと一緒に我が社へいらしたのは、16,7年前でしたね。ちょうどその頃、タツミはプレカットのラインを引いたばかりで、中国木材の堀川さんから来ていただくのは恐れ多いな、というのが本音でした。

その頃、タツミはまだまだ金属加工がメインでしたので。

中国木材さんから仕入れさせていただいている金額はちょっと存じ上げませんが、今度在来工法のプレカットも始めましたが無垢材が増えてくると思います。

弘中取締役：そのあたりは社長がしきりにご検討されているところですよ。金物工法も従来の一辺倒ではなくて、いろいろと切り替えていかれるのだろうと・・・。

山口会長：私は酒を飲まないのですが、今日は堀川会長に飲まれるんじゃないかと思って覚悟してきました。やっぱりドライビームの世界では、なんといっても日本一でいらっしゃるから。

堀川会長：確かにドライビームの需要は年々増えています。無垢材で強度

E110以上が実現出来ており、PC時代に対応した、管理しやすい材が求められています。

山口会長：おっしゃる通りです。あの震災以来、大手ハウスメーカーさんが、管理しやすい体制を作り始めましたよね。我々はスタートが金物工法でしたので、すでに集成材というのが決められていて、それに合う金物ということでハウスメーカーさんとのお付き合いが始まったのですが。集成材とドライビームとのヤング係数など考えますと、ドライビームのほうが管理しやすいんですよ。ですから「在来できません」と言っていたら市場に入っていけませんので、「在来ラインを引きなさいよ」と。元祖金物工法でやってきて、今更在来なんてと社内では猛反発があったんですけど。在来もできますよ、とお客さんを回って、3棟5棟は在来でいいから、6棟目には金物工法使ってみてください、と。ただでいいから、くらいのことを言ってみなさいよ、ってね。(会場笑い)

弘中取締役：自ら、こう懐を狭めてしまっってはね。

山口会長：そうそう。

弘中取締役：私どもにとってみると、在来はどうしても金物工法のお客様に対して仕様ができなかつたりというところが、ひとつ壁となっていて立ちはだかっていた事実はありますので、今回のご協力は我々にとって本当にありがたいお話ですし、ブレイクスルーができたな、という実感はあります。これからですから、ぜひよろしくをお願いします。

山口会長：まだまだ金物工法はマーケットが取れると思っています。なにしろ棟梁が少なくなっていますからね。7、8年前に在来の金物を作ったのですが、使ってみたらすぐに良さがわかります。プラモデルを組み立てる事が出来る理解力があれば、家一軒建てられます。工場加工して金具をつけて、あとは現場で組み立てるだけですからね。ところが現場は、それでは金がとれないから困ると。そうではなくて、時間と手間が減ったのですから、いままで以上に仕事を取ればいいんですよ。だから、楽で強い工法を採用してみなさいと言いたい。良いもの、強いものを作ると言ったら相手が怒りますか？安くしてくれっていうことになりますか？基本的に施工管理がしやすいということになれば、在来も金物を使ったほうが良い。

弘中取締役：なるほど。勉強になります。

山口会長：いやいや、とんでもない。

弘中取締役：私もプレカット工場へ行ったことありますが、CADのメンバーがまず金物から入っていくんですよ。金物のおさまりなどというのは一応効率的で、住宅の構造そのものを理解するのに早いんですね。ですからまず金物の担当をやらせて、次に軸組の担当をやらせる、みたいな形のステップを踏んでいましたんで。その点では金物はCADの生産性に人為的に貢献してるなというのを目の当たりに実感しております。そうやって育ててきますから、我々は。

山口会長：プレカットの仕事はあるのですが、CADが追いつかない。ちょっと油断してましたね。

弘中取締役：CADは今までの軸組だけでなく、もちろん羽柄材があり合板加工も入ってきましたから、従来1棟で軸だけでやっていけば良かった所を、点数が増えてきていますから、ちょっと伸びないですよ。ですからまたどんどん人が増えてくる、という。

山口会長：人が増えるというのは、企業の物差しとして「御社は何人いるんですか」というと昔はいっぱいあれば大きな企業と思われていた。ところが今はもう、企業の大きさを人数で表現するのはよくない。人数が多いという事はイコール自動化が進んでいないとか、遅れているとかね。トランプさんじゃないけれど、世の中、地球単位で狭くなってきていますから、距離感が。実際、聞く所によると、フィリピン、ベトナム、中国あたりでCADセンターをオープンしている業者さんがいらっしゃいますよね。現地の方々は本当の意味でどこまで理解して、生業にしているのでしょうか。

日本語が全然わからないのに、難しい木の世界の言葉を覚えさせるのは大変だと思います。

弘中取締役：そうですね。だから最初に日本に連れてきて、何年か研修させてからというケースが一般的なのですが、それでも後になって、皆さん教えてくれって言うてる。

山口会長：例えば10人採用したから、全員が平均則に伸びて行くかということ、そこは個人差がありますからね。リーダーを早く見極めて、ピックアップすることが大事ですね。

弘中取締役：三次元が頭の中で組み立てられないと、CAD マンとして成り立たないんですよね。CAD で伸びる子と伸びない子の差が激しいのは、頭の中で構造体として組み上がるか組み上がらないか、そこが大きな差になってきます。

山口会長：そうらしいですね。そうだとすると、やっぱり現場で1回といわず何度でも、構造躯体の建て方指導をしながら言葉を覚えてもらって、それから CAD 作業に入るといのが一番いいのではないのでしょうか。

弘中取締役：そうなんです。うちでも、空いた時間に建て方研修のような形で、近場の建て場に CAD の子を行かせたり、工場の子を行かせたりしてます。

山口会長：それは中国木材さんだからお出来になることですよ。タツミはギリギリですからね。

堀川会長：弊社も借金が多いので次の世代は苦勞すると思います。

山口会長：借金は遺したほうが良いように思いますね。私は借金ゼロで次に引き渡しましたけれども、借金がなくていいというのは逆に良くないのではないかとったりもしています。ところで話は変わりますが、私は広島には結構行くんですよ。岩国へ行って、呉へ寄って、江田島へ行って。忙しいんですよ。

山口社長：ミリタリーおたくなんです、会長は。

弘中取締役：タツミさんの本社へうかがうと、ミリタリーの帽子をずらっと展示されていますもんね。今度はぜひ3時間くらい時間をとって、うちの工場へぜひお立ち寄りください。潜水艦が間近に見られるところがありますし。特に年末・年始は、潜水艦が帰ってきていて結構賑やかなんです。

山口会長：広島から船乗って呉へ行き、潜水艦を見学させてもらって、江田島へ行くコースが私は一番好きなんです。

弘中取締役：潜水艦を見学に行くと、結構圧迫感がありますよね。お客さんをお連れして行くのですが、ここからはちょっときついなあって（笑）。

山口会長：それでいてきれいだ。日本の潜水艦は、素晴らしくきれい。手入れが行き届いていて、出来立てほやほやみたいです。

弘中取締役：特に人間の命に関わる乗り物ですからね。

山口会長：そうですね。中国木材さんの工場も、きっと機械は常にピカピカに手入れされているのでしょうか。

弘中取締役：まあ古い機械ですけど、メンテナンスは行き届いているんじゃないかと思っています。

山口会長：それが最高なんです、本当に。やっぱり手入れが行き届いている機械は何年たっても現役ですよ。ところで、新潟にはいらしたことがありますか？

弘中取締役：学生の頃、十日町に合宿で・・・。

山口社長：ぜひ、うちの工場へいらしてください。

山口会長：教えてくださいよ、プレカット工場はこうあるべきだと。

弘中取締役：とんでもないです。それこそ釈迦に説法ですよ（笑）。
これからは非住宅に入っていくのが我々の課題だと思っていますし。

山口社長：結構、中国木材さんは非住宅をやっているんじゃないでしょうか？

弘中取締役：はい、やっております。私どもは鹿島の集成材工場ができて、それでコラボレーションする機会が増えてきているんですよ。あの大断面工場があるからこそ、中国木材が絡めるというケースが増えてきています。

山口社長：もし非住宅でお手伝いできることがあれば、ぜひお声がけください。よろしくお願ひします。

弘中取締役：個人の住宅は、我々にとってもこれからの先が見えていますからね。やっぱり木でやれる非住宅の範囲をちょっと増やしたいですよ。木で十分カバーできる領域はあると思っています。

山口会長：知っているようで、工法を意外とまだ知りませんから。

弘中取締役：弊社も一緒です。

山口会長：やはり一度新潟にお越しいただいて、タツミが作った保育園などを見ていただきたいですね。

弘中取締役：保育園というと、100坪とか、150坪とか・・・？

山口会長：いえいえ、400坪くらいあります。

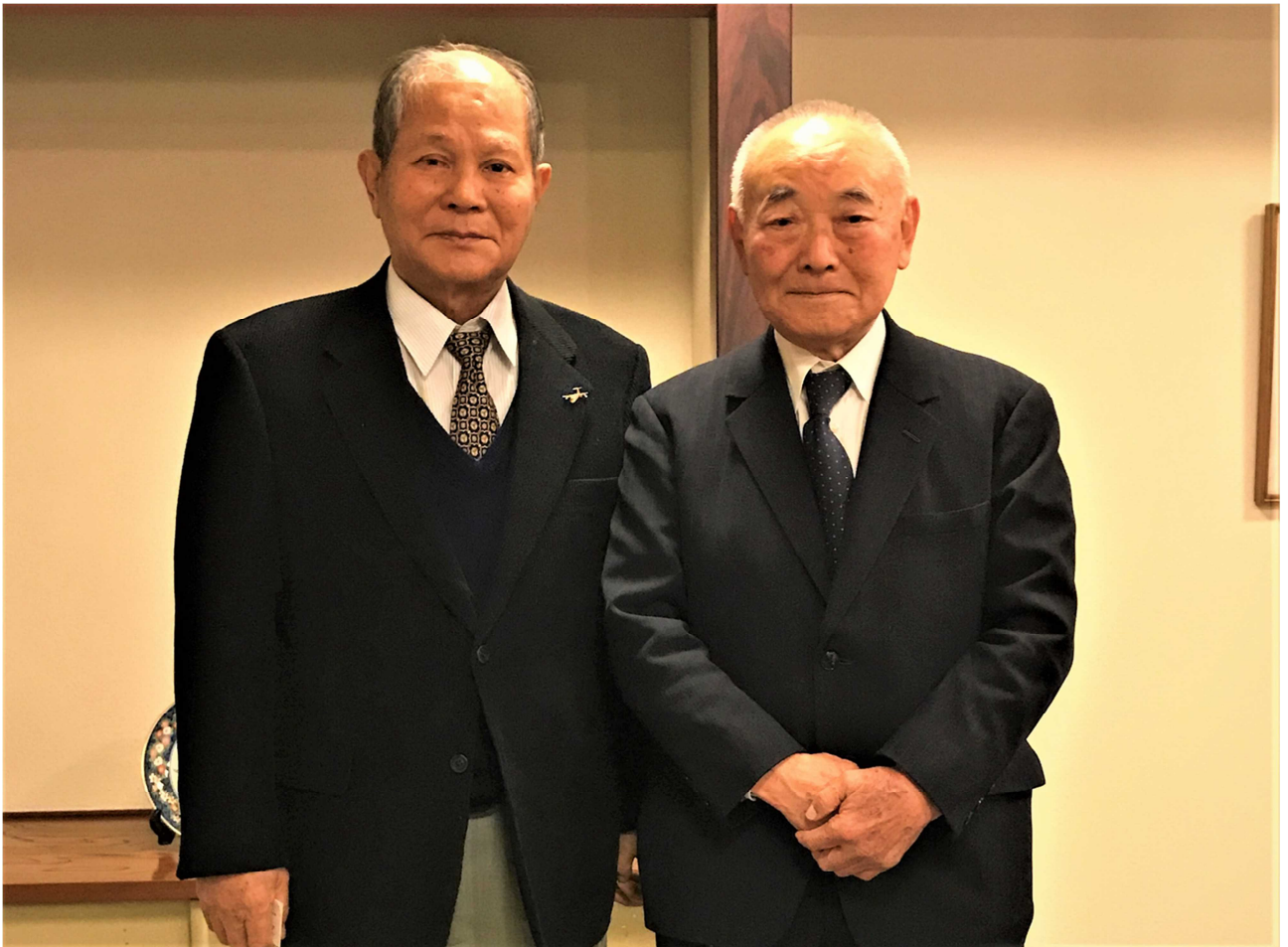
弘中取締役：それは大きいですね。平屋でしょ？

山口会長：基本的には平屋です。ですからぜひご覧になってください。

弘中取締役：はい、わかりました。

堀川会長、弘中取締役：これからはますますご一緒にできることが多くなると思いますので、ひとつよろしくお願ひします。

山口会長、山口社長：こちらこそ、よろしくお願ひします。



今後の弊社の金物工法と中国木材のハイブリッド&ドライビームのコラボ展開にご注目下さい。